信州に暮らすならこんな家「これがわたしのこだわり住宅」28

〈優雅にひと時を過ごすやすらぎの住まい ⑭〉

受け継がれた天井レリーフ 御柱祭を楽しむ地域密着の家

老朽化に伴い建て替えられた中村邸は先々代が残した貴重な漆喰レリーフを天井に再現し、7年ごとの御柱祭を意識してプランが練られた地域密着型の家である。

天井の漆喰レリーフが異彩を放つ居間

先々代が寒天づくりに使っていた蔵にも熟練した左官の技が残されている

居間天井の漆喰レリーフ。左官職人でもあった先々代が大正初期に改修前の和室の天井につくったもの。今では立派な工芸品

吹き抜けに曲面をうまく組み合わせて空間的な変化をつけた玄関ホール

シックな主寝室。屋根形状に合わせたアーチ天井に間接照明が効果的

どうしても残したい！

中に入ってまず目を引くのが居間の天井にあるレリーフ。直径120㎝ほどの円の中には柔らかな曲線で植物が浮き彫りにされ、高級感を漂わす。写真ではオレンジ色に見えるがこれは照明の色が映っているため。実際は白だ。

実はこのレリーフ、左官職人の先々代が大正初期に漆喰でつくったもの（※）。この地域では他に先駆けて寒天づくりを生業とした先々代だが、冬以外の収入の糧として左官業も手がけていた。自宅の建設にあたり畳敷きの和室の天井を漆喰天井とし、そこにこのようなレリーフをしつらえたのである。

中村さんが自宅の改修を決めたのは老朽化による。地盤が軟弱ということもあって、クルマが通るたびに家が揺れる上窓の建てつけも悪い。全体が傾いてもいた。ところが、このレリーフのある漆喰天井にはヒビひとつ入っていなかった。

「このレリーフは）ぜひ残したかったのです。それが先祖への敬意であり、歴史を受け継ぐことでもあると思いました」と中村さん。建替えの話を聞きつけて「譲って」という申し入れもいくつかきたほど。知る人ぞ知るレリーフなのである。

鶴のレリーフは家宝に

取りはずし作業は大変だった。下地を含め天井部分の厚みは20㎝、重さは500㎏もあった。家の中なので重機は使えず、結局8人がかりの手作業となった。

「これだけの重さを支えていたのですから、家自体もしっかりした造りでした」と設計の茅野さんは感心する。

実は天井にあったのはこの丸いレリーフだけではなかった。これを囲むように四隅に鶴のレリーフも描かれていた。それらは、ひとつは額に入れて和室に飾り、あとは兄弟に分けて家宝にしてもらっているという。

古いものを残すという点では離れもそうだ。築20年を経て、普通なら「このさいだから」と取り壊してしまうところだろう。しかし、所有する山から木を伐り出し建築材にするなど建物への思い入れが強かった。耐久性も十分で、母親の居室として引き続き活用されることになった。もちろん、断熱性を高め性能アップを図っている。庭から直接出入りできる配置なのでご近所付き合いも今まで通りと便利。

やさしいアーチ型

「独自性を出したかったのと、曲面のある家にしたかったのです」という中村さん。設計の茅野さんもまた曲面を生かした家づくりを得意とし、最終的に屋根とバルコニー、屋内の天井をアーチ型にした。玄関ホールも丸みを生かしたデザインを取り入れ、特徴を出している。

南に山が迫り午後2時には日がかげるという制約された敷地条件ではあるが、開口部を大きく取り、平面プランを工夫することですべての部屋が明るい。寒さ対策では、家全体を高断熱高気密にして輻射式のパネルヒーターを採用した。「真冬でも日中は暖房不要で快適です」とおばあちゃんは大喜びだ。

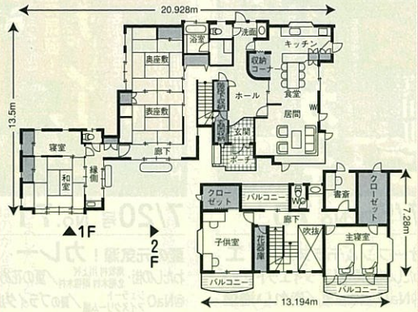
御柱祭対応住宅

中村邸は7年ごとに巡ってくる御柱祭を強く意識した家でもある。北面道路が祭りのメインストリートのため2階北側に4畳大のバルコニーを設け観覧席にしたほか、玄関横にベンチを置き参加者が一服できるようにした。いざ祭りが始まれば次から次へと人が訪れるので飲食の場として和室2間を続き間に。多人数で台所仕事ができるように台所は作業スペースやキッチンカウンターを広くとり、勝手口をつけて出入りしやすくした、等々。そしてこれは御柱祭に限らず親戚などが一堂に会するときにも大いに役立つ。

3年後の御柱祭が待ち遠しい中村さんだ。

※[漆喰レリーフ、鏝絵]　明治から大正にかけての日本の洋風建築では、室内装飾や天井などに漆喰を盛り上げて動植物や七福神などを描く鏝（こて）絵がブームとなった。鏝絵を描くには熟練した左官技術が必要で、西伊豆の長八美術館に作品が多く見られる。現代では新建材に押されて漆喰が使われなくなり、それにつれて職人の数も激減している。

見取図＆スペック



中村邸（茅野市）

家族構成　母＋夫婦＋長女
延床面積200.8㎡（60.7坪）
　1階127.38㎡（38.5坪）　2階73.42㎡（22.2坪）
　既存離れ31.45㎡（9.5坪）
工期　2000年4月～2000年8月
構造　木造2階建
―工事費―
65万円／坪（既存建物解体、改修含む）
設計監理料　8%
―仕様―
主要内部仕上：床／銘木化粧フローリング（F1仕様：低ホルムアルデヒド商品）、壁／ビニルクロス（SV規格：ホルムアルデヒド対策品）、京壁塗、天井／ビニルクロス（SV規格：ホルムアルデヒド対策品）、化粧岩綿吸音板
主要外部仕上：外壁／磁器質タイル、屋根／ガルバリウム鋼板葺

設計：㈱アトリエ茅野（茅野益実、諏訪市）☎0266・58・6226
施工：㈱平林工務店（諏訪市）☎0266・58・5343

[施主・中村さんのひとこと]

家族はふだんレリーフ天井の居間でくつろぎますが、親戚が集まったり御柱祭の時は大勢ですので和室2間が必要になります。茅野さんには家の内外に曲面をつけてもらい、明るく暖かな家にしていただき感謝しています。

[設計・茅野さんのひとこと]

設計者：茅野さん

日がかげりやすい敷地ですから、すべての居室が明るくなるようにレイアウトし開口部を配置しました。外観は、既存の土蔵とのバランスをいかに確保するかが課題でした。

[取材者のひとこと]

取材中、何度も「祭りの時には……」「だから……しました」とうれしそうに話す中村さん。脈々と受け継がれてきた地域の伝統を守りながら祭りを楽しみたいという、熱い想いが家づくりに反映されていた。

中村邸の暖房は身体にやさしい輻射式ヒーター。和室では壁をへこませコーナーに竹をあしらった。できるだけ目立たないようにとの工夫

玄関入って左手に1畳程のスペースを靴の収納庫として設けた。2ヶ所の出入口は戸で開閉でき、玄関をすっきりさせる

居間の天井に再現したレリーフとともに改修前の漆喰天井に使われていた鏝（こて）絵は額に納められた。鶴が描かれている

座敷廊下と玄関の間の畳1枚ほどの狭いスペースにある坪庭。中村さんの手づくり

外観は、磁器質タイルの壁にやさしいアーチ屋根を組み合わせた独特のスタイル

女の子らしくきれいに整理された長女・夏美ちゃんの部屋。南面で明るい

御柱祭のときでも大勢で台所仕事ができるように、作業スペースやカウンタートップにゆとりを持たせた台所

★この企画は毎月5日発売号で連載しています。